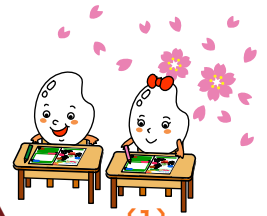


庄内平野の米づくり ~おいしい庄内米ができるまで~

## 2 健康な苗を育てる < 4月中旬~5月中旬 >



(1)



田植え機による稲づくりでは、大きく分けて稚苗（完全葉 2.5 枚ていどの苗）を植える方式と、中苗（3.5 枚ていどの苗）を植える方式があるんじゃ。



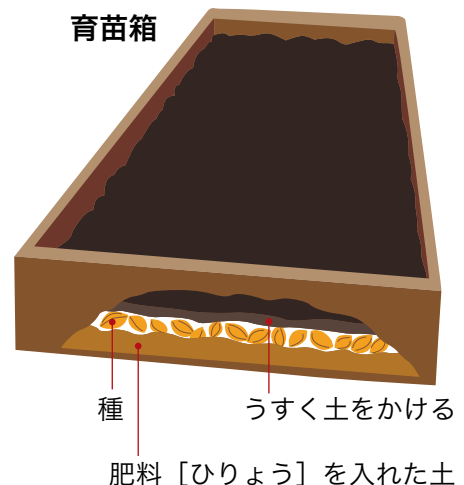
庄内地方では稚苗方式が主になっているのよ。

### ① <sup>とこつち</sup> 良い床土を選ぶ < 4月中旬 >

育苗箱\*に詰める床土の良し悪しが、根くみが良く機械植えに適する健康な苗になるかどうかの決め手です。

床土は有害物や病原菌がなく、<sup>てきど</sup>適度な水もちと水はけがあり、通気性に富むものを選びます。近年は重い床土の代わりに、軽い代用品が普及しはじめています。

\* 育苗箱=苗を育てる専用の箱



### ② <sup>はしゅ</sup> 種をまく (播種) < 4月中旬 >

まず、育苗箱に土を消毒する農薬を加えた床土と肥料を詰め、播種機を使って、芽出しをした種を1箱に 150 グラムくらい均一にまきます。まいた後はうすく土をかぶせます。種をまく時期は田植えの 25 日前ごろで、庄内地方では4月 15 日前後です。

稲作には古くから「<sup>なえはんさく</sup>苗半作」ということばがあります。これは、苗の良し悪しが米づくりの出来を決めるほど大切だという意味だそうです。